

見るまえに跳べ 日本の新進作家 vol. 20

Leap Before You Look Contemporary Japanese Photography vol.20

2023年10月27日[金] - 2024年1月21日[日] 3階展示室



うつゆみこ 《岡崎おうはんコンゴウインコ》2022年 ©Yumiko Utsu

うつゆみこ | Utsu Yumiko

淵上裕太 | Fuchikami Yuta

星玄人 | Hoshi Haruto

夢無子 | mumuko

山上新平 | Yamagami Shimpei

東京都写真美術館では、2002年より写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘するとともに、新たな創造活動を紹介することを目的として「日本の新進作家」展を開催してきました。20回目となる本展では、5人の作家を取り上げ、不確かな時代を生き抜くための原動力を探ります。

21世紀に入り、アメリカ同時多発テロ、東日本大震災、新型コロナウイルスの感染拡大、ロシアによるウクライナ侵攻等、私たちの日常を揺るがす大きな出来事が起こっています。明日への不確かさは、人々を不安にさせ、心に迷いを生じさせ、新しいことへ挑戦する気持ちを後退させてしまいます。私たちは、間違いを恐れ、萎縮し、まるで「一万メートルの深海のような深い孤独」(W.H.オードン)に陥っているかのようです。このような心の強ばりは、どのように解きほぐすことができるのでしょうか。

本展では、この「深い孤独」と向き合い、独自の方法で写真作品によって、生きるための原動力の在処を示す5人の作家をご紹介します。孤独の中にありながらも、人とのつながりを手繰り寄せようとする彼らの作品は、私たちのかたくなな心を溶かし、人生の豊かさとは何かを思い出させてくれることでしょう。

—見るまえに跳べ— 私たちいつもそのように歩んできたはずです。

作家略歴

うつゆみこ | Utsu Yumiko

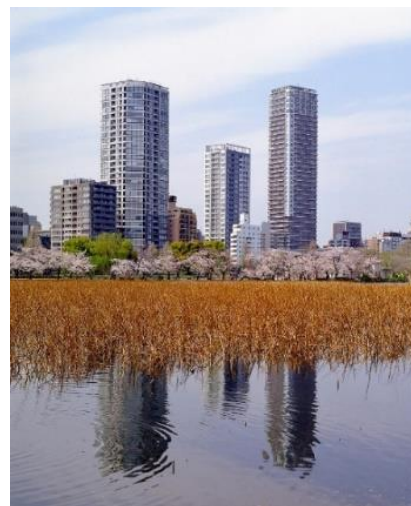
《岡崎おうはんコンゴウインコ》2022 年 ©Yumiko Utsu



1978 年、東京都生まれ。早稲田大学中退、東京写真学園 写真の学校・プロカメラマンコース修了。松濤スタジオ勤務を経て、2005 年頃より作家活動を始める。2006 年より写真の学校講師。動物や昆虫、植物、オブジェやフィギュア、図版などを組み合わせて、対象から得たインスピレーションにより作品を制作。その独自の世界観は、幼少期に体験したような事物との戯れを思い起こさせる。「はこぶねのそと」(G/P gallery、東京)、「Out of Focus: photography」(Saatchi Gallery、ロンドン) など国内外での個展およびグループ展に参加。写真集に『はこぶねのそと』(アートビートパブリッシャーズ、2009 年)、『Wunderkammer』(ふげん社、2023 年)、また『PORTRAIT』『うつつのゆめ』『Charming Charms』他多数の ZINE を制作。第 26 回ひとつば展(現「1_WALL」展)グランプリ受賞(2006 年)。

淵上裕太 | Fuchikami Yuta

《上野公園》より 2023 年 ©Yuta Fuchikami



1987 年、岐阜県生まれ。2014 年名古屋ビジュアルアーツ写真学科卒業。六本木スタジオを経て独立。2016 年より上野界隈に集まる人々を撮影した〈路上〉シリーズを継続的に発表。上野を背景に人物を正面から捉えた写真は、被写体との間に独特の距離感を生み出す。主な展覧会に、上野に集う人々を捉えた「路上～私の心を奪うために～」(TOTEM POLE PHOTO GALLERY、東京、2016 年)、「2021 年度ヤング・ポートフォリオ サテライト展」(Place M、2022 年) など。主な写真集に『路上 1』(2017 年、私家版)、『路上 2』(STAIRS PRESS、2018 年)、『上野公園』(塩竈フォトフェスティバル、2023 年)。塩竈フォトフェスティバル 2022 ポートフォリオレビュー・写真大賞受賞。

星玄人 | Hoshi Haruto

《東京都港区西麻布 3-1-19-1F》2022-23 年 ©Haruto Hoshi



1970 年、神奈川県生まれ。2000 年、現代写真研究所修了。主に新宿、横浜、大阪市西成区などで撮影。街に通り詰めることでしか出会えない人々を独特の距離感で写した写真が強い存在感を放つ。主な活動として初個展「水銀灯」（ガレリア Q、東京、2002 年）開催後、同ギャラリーにて定期的に個展を開催。2007 年『街の火』（ガレリア Q）刊行。2008 年ニューヨーク gallery onetwentyeight にて個展開催。その後サードディストリクトギャラリーの運営メンバーとなり、2009～2020 年まで「St. photo exhibition」と題した連続展を 34 回開催。2017 年、写真集『WHISTLE / 口笛』（Little Big Man、ロサンゼルス）刊行。第 30 回写真の会賞受賞。

山上新平 | Yamagami Shimpei

〈Epiphany〉より 2018-21 年 ©Shimpei Yamagami



1984 年、神奈川県生まれ。東京ビジュアルアーツ卒業後、イイノ・メディアプロ入社。2010 年より活動。主なグループ展に、「LUMIX MEETS BEYOND 2020 BY JAPANESE PHOTOGRAPHERS #3」（YellowKorner Paris Pompidou、パリ、2015 年／IMA gallery、東京、2016 年）、「daikanyama photo fair 2017」（代官山ヒルサイドフォーラム、東京、2017 年）、「3daysEXHIBITION」（Sezon Art Gallery、東京、2017 年）。主な個展は、「0189」（社食堂、東京、2017 年）、「山上新平展」（思文閣、東京／京都、2019 年）、「The Disintegration Loops」（POETIC SCAPE、東京、2019 年）、「Refined black」（Laboratory ΔII、東京、2019 年）、「Helix」（minä perhonen、東京／京都、2022 年）、「liminal (eyes)」（POETIC SCAPE、東京、2023 年）、「liminal (eyes)」（本屋青旗、福岡、2023 年）、「liminal (eyes)」（PURPLE、京都、2023 年）。写真集に、『Helix』（皆川明 [minä perhonen]、2022 年）、『liminal (eyes) YAMAGAMI』（bookshop M、2023 年）。

夢無子 | mumuko

《戦争だから、結婚しよう！（第二章）》2022-23 年 ©mumuko



1988 年、中国生まれ。世界 60 カ国以上をスーツケースひとつで放浪。「Kaguya by Gucci」などの広告写真、劇場写真、映画など幅広い分野の撮影を手がける。写真、映像、インスタレーション、空間体験等により、表現の可能性を模索するビジュアルアーティスト。

主な展覧会に「皺む×WRINKLE UP」（キヤノンギャラリー 銀座／大阪、2021 年）、「無、無、無、そして。」（ソニーイメージングギャラリー 銀座、2021 年）、「Role・Me/角我色」（IWEI Art Museum、雲南省、中国、2020 年）。2015～2020 年に旅した国々と 2020～2022 年のコロナ禍の日本で撮影された写真で構成された初の写真集『DREAMLESS 夢無子写真集』（玄光社、2022 年）を出版。「第 2 回 SHINES」（江川賀奈予・川本康選、2019 年）、「ZOOMS JAPAN 2021」（2021 年）エディター賞を受賞。

出品作品点数

合計 382 点（うつ：48 点、淵上：56 点、星：231 点、夢無子：2 点、山上：45 点）

公式図録

『見るまえに跳べ 日本の新進作家 vol. 20』価格未定

東京都写真美術館発行。浜崎加織（本展企画者）によるエッセイ、出品作家によるステートメント、作品リストを収録。最新の展示風景図版を掲載予定。※販売予定日 11 月中旬以降（予定）

関連事業

※事業は諸般の事情により内容を変更する場合があります。

☐ 担当学芸員による展示解説

2023 年 11 月 10 日（金）14:00- 3 階展示室

☐ 手話通訳付きギャラリートーク

学芸員が手話通訳者を交えて、展覧会の見どころをお話します。

2023 年 12 月 15 日（金）14:00- 3 階展示室

2024 年 1 月 19 日（金）14:00- 3 階展示室

※そのほか、アーティスト・トークを開催予定

開催概要

見るまえに跳べ 日本の新進作家 vol. 20

Leap Before You Look; Contemporary Japanese Photography vol. 20

会 期 | 2023 年 10 月 27 日（金）－2024 年 1 月 21 日（日）

会 場 | 東京都写真美術館 3 階展示室

主 催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、東京新聞

協 賛 | 東京都写真美術館支援会員

電 話 | 03-3280-0099 WEB | www.topmuseum.jp

開館時間 | 10:00-18:00（木・金曜日は 20:00 まで、入館は閉館 30 分前まで）

休館日 | 毎週月曜日（月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館）、年末年始（12/29-1/1）

観覧料 | 一般 700 円、学生 560 円、中高生・65 歳以上 350 円

※ 小学生以下及び都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2 名まで)は無料。

※ 1 月 2 日(火)、3 日(水)は無料。開館記念日のため 1 月 21 日(日)は無料。

※ オンラインで日時指定チケットを購入いただけます。

[お問い合わせ先]

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。会場風景写真は 11 月上旬ごろよりご提供可能です。掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。

* 図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

* 図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

東京都写真美術館 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM 電話 03-3280-0034 / FAX 03-3280-0033 / www.topmuseum.jp

展覧会企画 浜崎加織（東京都写真美術館 事業企画課 事業第一係）

展覧会副担当 山崎香穂、鈴木佳子（東京都写真美術館 事業企画課 事業第一係）

広報担当 平澤 / 池田 / 鈴木(彩) press-info@topmuseum.jp

本展は諸般の事情により、内容を変更することがございます。最新情報は当館ホームページをご確認ください。
--